【生活科提案】

未来に生きて働く探究力と省察性の育成

生活科の本質

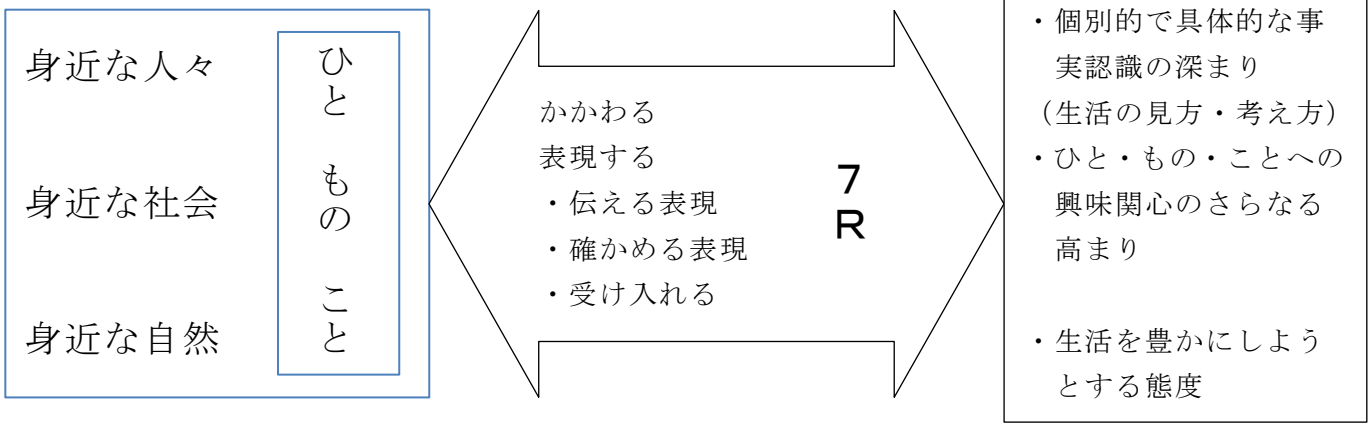
生活科は，子どもの生活の全てが学習対象である。子どもは，生活科の活動や体験の過程で自分自身や身近な人々，社会，自然の特徴やよさ，それらの関わり方などに気付く。そして，生活上必要な習慣や技能を身に付け，身近な人々や社会，自然を自分との関わりで捉える。その過程で，自分自身や自分の生活について考え，表現し，身近な人々，社会，自然に自ら働きかけ，意欲や自信を持って学んだり生活を豊かにしたりしようとする。

個別的な事実を認識し，中学年以降の教科でそれらの個別の事実認識の一般化・普遍化につながるよう，五感を通したリアルな活動・体験を進める。それらを通して，人々，社会，自然，それらに関わり，表現し，探究しようとする態度を育てる。

生活科の目標及び育みたい探究力と省察性

生活科の目標	具体的な活動や体験を通して，身近な生活に関わる見方・考え方を生かし，自立し生活を豊かにしていくための脂質・能力を育成する。
育みたい探究力	身近な人々，社会，自然（ひと・もの・こと）に関わり，表現することで，具体的な個別の対象に対する認識を深める力。
育みたい省察性	省察性の土台として，低学年期では，気付きの質を高める力。

生活科における探究的な学びのイメージ



探究力と省察性を育む指導

７つのＲ　　生活科の目標を達成するため，次の５点（７Ｒ）に基づいた単元構成を行う。

（１）リアルな体験（学習と生活の結合）“Real, Raw material”
（２）季節を感じる（季節の遊び，旬の食材，栽培や飼育）“Real time”
（３）人とかかわる“Relation,　Receive”
（４）充実した表現“Representation”
（５）異質性の認識（違いに気付き，社会や世界を知る）“Respect”

五感で感じるリアルな活動を通し，ひと・もの・ことと関わり，表現することで，探究力が高まり，省察性の土台となる気付きの質を高め，生活を豊かにしようとする態度を育てる。

研究の評価

上記における（１）～（５）に基づき，子どもが表現する過程や表現したもの，対象に向かう行動，授業における言葉，「見つけたよカード」などの記録，振り返りを用いて研究評価を行う。

中学年以上の学習と，どのようにつながったかを評価する。